

テーマ	皆で話そう！！ダイバーシティ推進のために必要なこと・難しいこと・乗り越えたいこと
発表内容	各学校が抱えている課題を共有するためのワークショップ
発表者	阪田真己子(同志社大学文化情報学部教授・同学部長・ダイバーシティ推進に関する検討部会・委員長)

発表概要

同志社一貫教育探求センター主催のダイバーシティ推進に関する検討部会と、各校からの参加者を迎え、分科会を開催しました。

開会にあたり、玉井史絵 副学長より挨拶があり、学校という環境には「個人を尊重すること」と「共同体としての一体感(ユニティ)」の両立が求められ、そのための教育の在り方について、理想論だけでは語れない現実的な課題や困難をどう乗り越えていくのか、参加者と共に率直に意見を交わしたいとのお話がありました。



続いて、阪田真己子 委員長によるアイスブレイクの後、参加者全員でクイズ形式のワーキングが行われ、会場の雰囲気が和らぎました。その後、5～6名ずつに分かれたグループワーキングでは、各校が抱える課題、参加教職員の実体験、身近な事例などをもとに、活発な意見交換が行われました。最後に各グループで話された内容の発表を行いました。発表では、「合理的配慮の線引きが難しい」、「障がいの受容には児童・生徒本人だけでなく保護者への丁寧な対応が必要」、「限られた予算の中でどのような施策を講じることができるか」等、具体的かつ切実な課題が共有されました。

閉会にあたり、阪田委員長から、「思っても口に出せない課題」も含め、経済的課題も横断的に共有・解決していくために、本分科会をダイバーシティ推進に関する検討部会との合同開催としたこと、また、今後もこのような対話と共有の機会を継続的に設けることで、私たちが“同志社人”として多様性を受容し、より良い教育・研究環境を築いていけるよう努めていきたいとのメッセージがありました。